**定例記者会見発言録**

日　　時：令和７年１月７日（水）14時00分～

場　　所：伊達市役所東棟４階　401・402多目的会議室

出　　席：市長、副市長、教育長、総務部長、未来政策部長、財務部長、産業部長、

行政委員会事務局長、危機管理担当参事、デジタル変革課長

報道機関：時事通信社、福島民報社、福島民友新聞社

発表項目：市長より年頭のあいさつ後、下記の内容について、別紙資料により説明

資料１　茨城県筑西市と友好交流都市・大規模災害時相互応援協定を締結

資料２　おにぎりサミット2025に伊達市が初参加！

資料３　イオンスタイル仙台卸町における伊達市産「あんぽ柿」のトップセールス

資料４　未来の有権者啓発事業～未来の自分へメッセージ「18歳のわたしへ」～

資料５　「スマート窓口」の新たな取り組み

資料６　所得税確定申告ｅ－Ｔａｘ研修会を開催

《市長年頭のあいさつ》-------------------------------------------------------

明けましておめでとうございます。令和７年にあたりまして年頭のご挨拶を申し上げます。市民の皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

始めに、昨年１月の能登半島地震、そして９月の能登半島豪雨で被災した能登地方の早期の復旧、そして被災された方々が１日も早く普段の生活に戻れるよう、心からお祈り申し上げます。

伊達市では昨年は大きな被災はございませんでしたが、いつ発生するかわからない自然災害に対し、普段からの備えをしっかり進めてまいりたいと考えております。

昨年を振り返りますと、伊達市の未来を形作る基盤作りが進んだ年だと考えております。産業振興におきましては、新工業団地に進出した６社のうち３社が操業を開始いたしました。残り３社につきましても、操業に向けた準備を進められているとこでます。工業団地の整備により、雇用の促進そして地域経済の発展が今後大きく期待をされているところです。

大型商業施設につきましては、名称が「イオンモール伊達」と決定し、開業時期が2026年下期と発表されたところです。昨年11月には安全祈願祭が行われ、近く建築工事に着手すると伺っております。県北地方への誘客促進、そして経済発展に大きく貢献するものと考えており、大きな期待を寄せているところです。

次に子育て施設につきましては、昨年保原認定こども園、そして伊達ひかり認定こども園の２園が開園いたしました。また、高子駅北地区の住宅団地に開園を予定しております、（仮称）高子北認定こども園につきましては、今年４月の開園に向けまして現在準備を進められております。また、かみほばら放課後児童クラブにつきましても昨年開所いたしました。これらの施設整備により、幼児そして児童の保育教育、そして保護者が安心して働ける環境が整備され、子育て支援がより充実してきたと考えております。

次に交流促進につきましては、高子駅北地区にできましたＵ－プレイス伊達は、全世代・全員活躍のまちの中核施設として一昨年オープンしました。ここには、レストランやお試し居住ができるＮｅｘｔプレイスという施設を併設しております。

また、Ｕ－プレイスの近くではマルシェなども行われており、駅に近いということで、多くの皆さんにご利用いただき、賑わいが創出されております。

そして、月舘町の旧小手小学校に作りました、おての里きてみ～なにつきましても、自転車と泊まれる宿というコンセプトで一昨年にオープンをしました。ここでは、イベントや自転車愛好者の宿泊、またはそれ以外に学生の合宿等で使っていただいております。また、カフェでは給食風ランチを提供するなど、非常にレトロ感満載の施設となっており、多くの皆さんにご利用いただいております。

こうしたＵ－プレイス伊達、おての里きてみ～な などの交流施設が伊達市の関係人口の創出に大きく貢献しているところであります。

このように、産業振興、子育て支援、交流促進など各分野で新しい伊達市の基盤作りが着実に進んだ年だったと考えております。令和７年につきましても、第３次総合計画の将来像であります「人と緑と歴史が結び合う　ひかり輝く田園空間　伊達市」を目指して、安全・安心で健康福祉、教育文化そして産業振興など基本目標の６つのまちづくりを推進して参りたいと考えております。

そのために、各種課題に対し市職員一丸となり、チーム力で果敢に挑戦をして参りたいと思いますので、市民の皆様のご協力、ご理解をいただきますようお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

《質疑応答》----------------------------------------------------------------

**おにぎりサミット2025に伊達市が初参加！**

記　　者　今回、当日発表される新商品は、「肉ゴロッとおにぎり」ではなく、新たなおにぎりが発表されるということでしょうか。

市　　長　「肉ゴロっとおにぎり」はすでに商品として販売しています。おにぎりサミットで発表されるものが、具体的にどのようなものになるかは当日発表になります。現在伊達鶏を使ったおいしいおにぎりを、鳥よしさんで考え、作っていただいているところです。

記　　者　サミットの内容で、首脳会談や調印式、企業とのセッションとありますが、こちらは具体的に他の自治体とどういった関わりなどを行う予定でしょうか。

市　　長　例えば伊達市ですと、伊達鶏を使ったおにぎりということになりますので、南魚沼市のお米や、海苔や塩など、おにぎりを作る具材を提供する各自治体の首長と意見交換をするという内容になります。

記　　者　自治体が出すおにぎりの具材のＰＲであったり、その地域の行政課題などについても互いに意見交換をし合うということでしょうか。

市　　長　おにぎりを通じて、おにぎりに使う食材を通じ地域の良さをお互いに出して、ＰＲをしながら、お互いの地域の友好関係を結んでいくということもあります。

また、このサミットに参加した自治体同士が友好交流都市を結んだり、

大規模災害時相互応援協定を結ぶなどといった例もありますので、今後そ

のような友好関係に発展していくこともあるかなと思います。

**未来の有権者啓発事業～未来の自分へメッセージ「18歳のわたしへ」～**

記　　者　対象となる市内の小学校６年生は何人になるくらいでしょうか。

行政委員会事務局長　約400人となっています。

記　　者　この事業は、来年度以降も継続して行うという認識でよろしいでしょうか。

市　　長　その通りです。例年４月に学校の授業の中で政治について考える時間がありますので、来年度以降はその時に配布します。今回は、初めての取り組みのため、１月に配布させていただくこととしました。

記　　者　現在の５年生には、今年の４月に配布するような形でしょうか。

市　　長　その通りです。

記　　者　このパンフレットは伊達市の方で独自に作られたものでしょうか。何か

参考にされたものがあれば教えてください。独自の場合、作成のきっかけ

や経緯を教えてください。

行政委員会事務局長　まず、若年者の投票率が低いということがあります。総務省においても、

「18歳の選挙権に関する意識調査」というものを行っておりまして、 その

中で、「家族で政治や選挙について考える機会を作って投票を促していく、

併せて親世代の啓発に繋げていくことが大切である。」ということ、「家族

と一緒に投票に行く方は、その親が投票に行っている頻度が高い」という調

査結果がありました。それを参考に、若年者の投票率を上げる取り組みを行

っている事例を調査し、新潟県において18歳へのメッセージとして同じよ

うな形で取り組まれているものがありましたので、それを参考にさせていた

だき、独自にパンフレットを作成しました。

記　　者　参考としたのは、新潟県新潟市でしょうか。

行政委員会事務局長　新潟県の選挙管理委員会となります。

**「スマート窓口」の新たな取り組み**

記　　者　リモート窓口の対応可能な業務として、例として４つほど業務を挙げていますが、この４つに関しては、今のところ本庁のみで対応ができていたものという理解でよろしいでしょうか。

総務部長　本庁に限らず、総合支所窓口においても、マイナンバーカードの申請やマイナ保険証・公金口座の紐づけの業務、おくやみの手続きについて、職員の方で対応しておりました。

また、手続する方が、それぞれのパソコンやスマホから行えるオンライン申請も行っておりますが、今回、リモート窓口用のタブレットを窓口に設置し、接続すると業務委託を行っている会社のオペレーターに繋がり、手続きに関する案内や対応などをしてもらえますので、職員でなくても手続きすることができるようになります。

さらに、必要に応じて本庁と接続し、担当者とオペレーターと申請者の３者通話によって手続き等を完了することもできます。今までアナログ的に行っていたものを、デジタルを使って遠隔で行えるという形になります。

記　　者　リモート窓口を導入することによって、窓口の一括化と、専門的な本庁の職員のサポートがリアルタイムに受けられるようになることが、スマート窓口によって市民の方が得られる利点でしょうか。

総務部長　その通りです。今後対象範囲を拡大していきたいと考えておりますが、まずは４つの業務から始めていきたいということです。

記　　者　利用開始が２月３日からということですが、時間帯は どちらも市役所が営業している時間帯の中で利用できるということでしょうか。

総務部長　どちらも窓口開庁と同じ時間での利用を想定しています。

記　　者　白河市が相談業務をメインとしたものは元々やられていたということで

すが、伊達市では相談業務は行わないということでしょうか。

総務部長　伊達市のスマート窓口につきましては、オペレーターに対応をお願いし

ているところでして、メニューの調整をしています。

今のところは、オンライン申請や住民の方の申請の手続きをメインとして

考えています。将来的には相談窓口としても拡充は可能かと思いますが、ま

ずは申請の手続きというところから導入したいと思っております。

　**その他**

**■パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について**

記　　者　昨年の１月に伊達市でパートナーシップ制度が始まり、昨年の秋には１組宣誓者がいたと伺っておりましたが、改めて制度が開始され１年経過した、現在の制度の宣誓状況はいかがでしょうか。

未来政策部長　昨年に１組の宣誓がありましたが、それ以降の宣誓の実績はございません。